

和食文化学科の開設に寄せて ～カツオと昆布の話～

附属図書館長 菱田哲郎

今年の4月、文学部に和食文化学科が開設されました。そこで、和食にちなんだお話しを紹介させていただきたいと思います。和食の定義もいろいろありますが、日本的な食文化とするとその成立は古代にさかのぼります。私は、かつて平城京から出土する土器の中に駿河伊豆地域で作られたものがあり、そこで税として納められた堅魚（カツオ）の煮汁を運ぶ容器であるという説があることを自著『須恵器の系譜』で紹介しました。カツオは太平洋側の諸国で獲られていたようで、貢納品に指定されています。駿河と伊豆からは、加えて「堅魚煎汁」の貢納もあり、味のよいものを選んで送るように指示されていました。「堅魚煎汁」は平安時代に編まれた辞書である『和名類聚抄』に「カツオイロリ」という訓があり、今日、鰹色利と呼ばれているものにあたります。「出汁」の言葉は古代にはまだありませんが、鰹色利の存在から出汁に相当するものがすでにあつたと考えられます。

和食の出汁というカツオと並んで昆布がすぐに思い浮かびますが、昆布もまた古代から知られた食材でした。『続日本紀』霊亀元年（715）10月29日の記事には、陸奥国閉村（閉伊郡・現在の岩手県宮古市）の蝦夷が昆布を毎年貢献していることが記され、奈良時代のはじめには三陸地方の昆布が陸奥国府である多賀城に納められ、そこから都に送られていました。また、秋田県の城柵遺跡である弘田柵からは「狄藻」と記された木簡が出土していますが、これも『和名類聚抄』の記載から、エビスメと読み、昆布の別名であったことがわかります。このように遠く北日本の昆布は早くから平城京に届けられ、食されていたのでした。

奈良時代は中央集権国家が完成し、全国各地からさまざまな特産品が税として送られてくる仕組みが整いました。その中に、カツオの煮汁や昆布のような、その後の日本で重用されるうまみを持つものが含まれていたこととなります。ほかにも干し魚やアワビなどもあり、日本人が好む味が揃っているように感じられます。このような特徴は平安京にも受け継がれ、9世紀半ばの記事にも、陸奥国で採れた昆布が東山道を経由して平安京に送られている様子がわかる史料があります。ですので、平安京の地である京都は、まさしく全国の食材の結集する場所であり、和食を考えるうえでとても重要な場所と言えます。

*本稿で取り上げた『和名類聚抄』は、『諸本集成倭名類聚抄』があるほか、国立国会図書館のデータベースで見ることができ、『続日本紀』は岩波書店の『新 日本古典文学大系』が読みやすく便利です。なお、『須恵器の系譜』も府大関係図書として配架されています。

現代社会論を再読する

公共政策学部福祉社会学科 野田 浩 資

社会学の分野から入門的な本を紹介してみようと思い、新書を中心にいくつかの本を読み直してみました。その中から、出版された当初にゼミで講読したこともある見田宗介著『現代社会の理論——情報化・消費化社会の現在と未来』（岩波新書、1996年）をとりあげてみます。平成という時代を振り返る意味から、およそ20年前に出版された本ですが、当時の「現代社会論」を再読してみるよい時期と思われる。

「現代社会」の始まりは、一般的に、1920年代のアメリカとされています。第一次大戦の終結後、戦場となったヨーロッパに対して、アメリカは、大量生産・大量消費の本格化とマスメディアの発達の時代を迎え、その繁栄は1929年の世界大恐慌まで続きました。何度も映画化されているフィッツジェラルドの『華麗なるギャツビー』（1925年）の背景となっている時代です。

大量生産と大量消費の時代というだけではなく、1927年には、最初の大量生産型自動車であったフォード社の「T型フォード」が、GM（ゼネラル・モーターズ）社の「デザインと広告のための年々のモデルチェンジという戦略」によって生産停止に追い込まれたことが、本書でも紹介されています。

マスメディアの発達とともに、デザインや広告によって欲望を刺激された消費社会の「繁栄」が、社会全体で本格的に花開いたのが、第二次大戦後の1950年代のアメリカ社会でした。リースマンの『孤独な群衆』（1950年）、ミルズの『ホワイトカラー』（1951年）、ガルブレイスの『ゆたかな社会』（1958年）

など「現代社会論の古典」が生み出された時代です。「ゆたかな社会」「消費社会」「情報化社会」「脱産業化社会」「管理社会」として語られる社会が、その後、全世界的に展開し、現代につながっているのです。

本書の特徴は、「情報化／消費化社会」の「光の巨大」とその外部に広がる「闇の巨大」の両面について議論が進められていることです。「光」の側面として、「情報化」と「消費化」が相互に影響し合い「情報化／消費化社会」が自立的なシステムとして成立してきたこと、一方、「闇」の側面として、「情報化／消費化社会システム」と「外部」との間に2つの領域の「外部問題」が生み出されていることが描き出されています。

第1に、システムと「自然」との間に「環境」「公害」「資源」「エネルギー」問題として語られるさまざまな問題系が生じており、第2に、システムと「外部社会」との間に、「南北の飢餓と貧困の悲惨という現実」が生じていることが示されています。「南北の」とされているように、「北」の先進産業諸国の国内における貧困や格差についても、「南」の途上国で生じている問題と同じ形式の問題であることが指摘され、ここには「福祉」をめぐる問題が含まれます。

一方、システムの内部には、著者が「内部問題」と位置づける問題系が示されています。「情報化／消費化社会」は、メディアの発達などを通じて、われわれが世界をどのように経験するかを変化させ、人と人とのコミュニケーションやリアリティとアイデンティティの変容をめぐる問題系が生じてくることが指

摘されています。

およそ20年前の「現代社会論」を現代の社会に照らし合わせてみましょう。著者のいう「外部問題」のうち、第1の問題系「環境と公害問題、資源とエネルギーの問題」をめぐるのは、その後の地球温暖化問題への社会的関心の高まりと停滞、また、対応の困難については説明するまでもないかと思えます。

「外部問題」のうち、第2の問題系「南北の貧困と飢餓の問題」をめぐるのは、より複雑かもしれません。その後の2000年代の世界情勢の変化により、難民や移民の問題として「南の国々」「第三世界」の貧困や飢餓を、以前にも増して差し迫った問題として感じるようになってきました。国内に目を向けると、貧困や格差、「福祉」をめぐる問題が社会的関心の前面に浮上してきているように思われます。

本書出版後の2011年に、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故が発生し、災害やリスクをめぐる問題が社会的課題と認識されるようになり、「少子高齢化」、「消滅自治体」など、将来的な人口減少を前提とする多様な問題が議論されるようになってきました。また、著者のいう「内部問題」として、「こころ」や「感情」をめぐる問題が社会の中心において議論される程度が高まってきていることにも気づかされます。

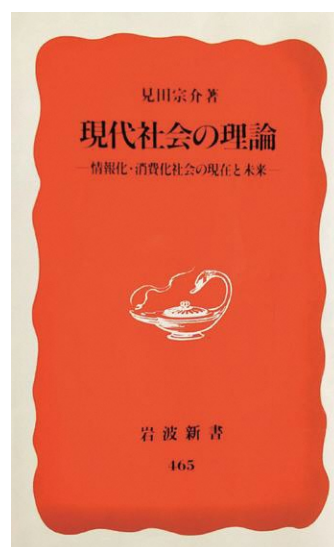
現代の社会を語るには、「情報化」と「消費化」を中心とするだけでは不十分となってきたかもしれません。それぞれの学問分野で、次の時代を特徴づけるキーワードが探求され、いくつもの候補が提出されていますが、決定版とはなっていないようです。一方、「情報化」や「消費化」によって社会を語ることは、まだまだ一定の有効性をもっており、見落とすことができない重要な視点であり続いていると思えます。

本書は、現代社会論として、それまでの現代社会論に回答を提出しつつ、新たな問いを提出したものといえるでしょう。ここで紹介

するために候補として読み直した本の1冊が、菅野仁著『友だち幻想一人と人の〈つながり〉を考える』（ちくまプリマー新書、2008年）でしたが、本書への回答を含んだ本といえます。

お笑い芸人で芥川賞作家となった又吉直樹さんによるテレビ番組での紹介などによって、出版からほぼ10年を過ぎたにもかかわらず、広く読まれるようになりました。社会学古典期のドイツの社会学者ジンメルのお考えをもとにして、現代の若者の人間関係を読み解き、現代社会における人と人との距離感を見つめ直したものです。古典的な理論を基盤としたうえで、学校での人間関係に悩んでいた娘さんへのアドバイスとして書かれた本であることが、又吉さんを含めた読者の心に届いた理由でしょう。『友だち幻想』は、本書への回答、特に「内部問題」としてのコミュニケーションやリアリティとアイデンティティの変容をめぐる問題系への回答となっているといえるでしょう。

ここ数年、時代は転換期を迎えつつあると思えます。学生の皆さんには、自分なりの回答を求めて、学生時代を過ごしていただければと思います。



『現代社会の理論 情報化・消費化社会の現在と未来』（見田宗介著、岩波新書、1996年）



図書館

京都府立大学附属図書館は、大学の北側の京都府立京都学・歴史館2階にあります。同じフロアには、京都府立京都学・歴史館の京都資料総合閲覧室や京都府立医科大学附属図書館下鴨館があります。



【下鴨中通りから正面玄関】

- 開館時間 平日 9時～21時 土・日 9時～17時
 - 休館日 第2水曜日、祝日、年末年始、蔵書整理期間等
- 開館時間や休館日の変更は、館内、学内掲示及び図書館ホームページでお知らせします。

日本十進分類法に基づき、分類順に並べています。

- 開架Ⅰ…総記、哲学、歴史、地理、社会科学
- 開架Ⅱ…自然科学、工学、産業
- 開架Ⅲ…芸術、言語、文学

- 2F書庫Ⅰ…総記、哲学、歴史、地理、社会科学及び大型図書
- 2F書庫Ⅱ…自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学及び文庫・新書

カウンター前には、参考図書、府大コーナーがあります。

- 参考図書…辞・事典、白書、年鑑等
- 府大関係図書群…本学に関する資料、本学教員の著書、博士論文、修士論文
- 教職・教科書…教職課程に役立つ図書、高校教科書
- 調べ方・論文作成…レポート・論文作成に関する図書
- しごと・資格…就職活動に役立つ図書

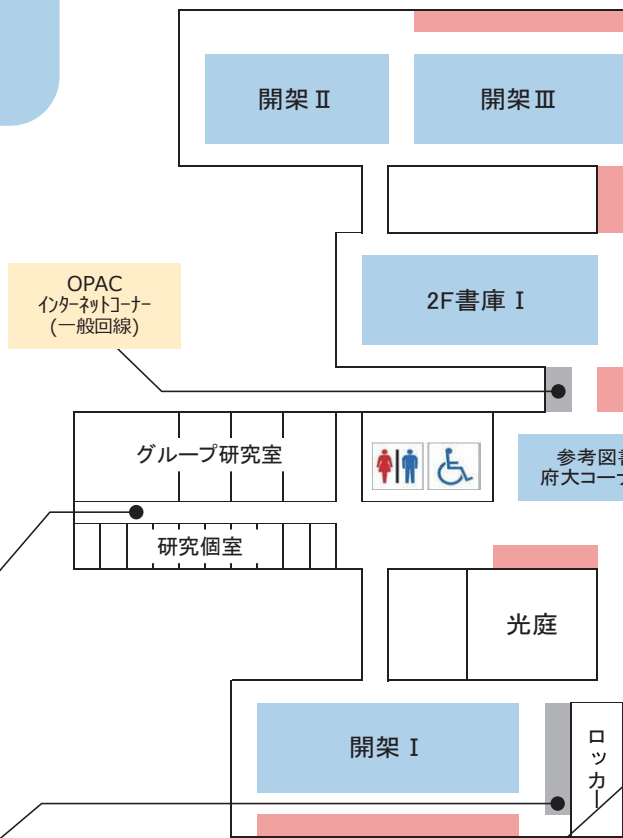
グループ研究室 (4室)
グループで学習・研究するスペース。少人数での学習会・ゼミ発表等に利用できます。

研究個室 (10室)
一人で集中して学習・研究するスペース。

カウンターでお申込みください。施設予約システムからも予約できます。ノートパソコン (学内LANに接続可) やプロジェクター、スクリーン等を貸出しています。



京都学・歴史館
2階



蔵書検索用端末 (OPAC)
本学所蔵資料の検索ができます。府立京都学・歴史館、府立医科大学附属図書館の資料も一度に検索可能。検索結果詳細画面の「所在」が「府大」で始まる資料が本学所蔵資料です。検索結果は、レシートプリンタから印刷ができます。

自動貸出機
貸出、貸出期間の延長ができます。利用カード (学生証を含む) が必要です。

マップ

図書館をうまく使いこなして、充実した大学生活を!



○ 貸出・返却カウンター

貸出・返却、貸出期間の延長、図書の予約、学生希望図書の受付、利用カードやマイライブラリのパスワード発行等を行っています。
映像・視聴覚資料コーナーやインターネットコーナー (学内LAN) を利用される際は、貸出・返却カウンターにお申込みください。

○ 相談カウンター

グループ研究室・研究個室の利用、複写の申込、他大学図書館等への閲覧依頼や図書・複写物の取寄せ、京都市内公共図書館・読書施設等からの図書の取寄せは、相談カウンターにお申込みください。

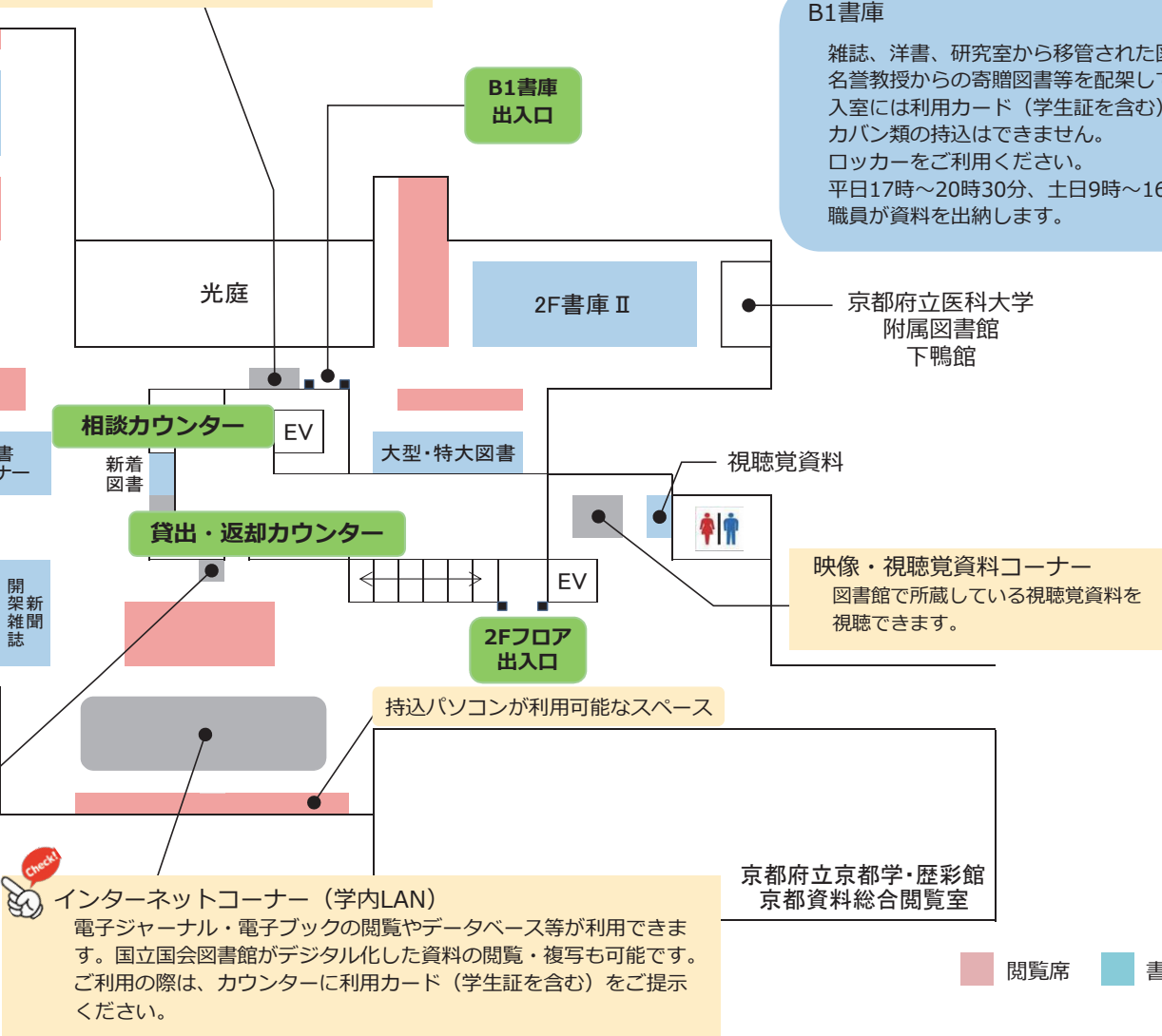
読みたい図書・雑誌の場所が分からない、必要な資料があるけど入手方法が分からない等の場合は、お気軽に職員にご相談ください。

複写 (コピー機)

著作権法の趣旨を踏まえ、個人の調査・研究のために、図書館所蔵資料の一部を 1 人につき 1 部だけ複写することができます。複写の前に申込書を相談カウンターにご提出ください。
モノクロ 1 枚 10 円、カラー 1 枚 20 円。

B1 書庫

雑誌、洋書、研究室から移管された図書や名誉教授からの寄贈図書等を配架しています。
入室には利用カード (学生証を含む) が必要です。カバン類の持込はできません。
ロッカーをご利用ください。
平日 17 時 ~ 20 時 30 分、土日 9 時 ~ 16 時 30 分は職員が資料を出納します。



蔵書検索 (OPAC) ・マイライブラリを使ってみよう

図書館の資料は、蔵書検索 (OPAC : Online Public Access Catalog) で検索ができます。ここでは、OPAC とマイライブラリについて紹介します。学外からでも利用できます。



● 3 館合同蔵書検索システム

This screenshot shows the search interface. A yellow box labeled '簡易検索画面' points to the search area. A red box contains the text: '3 館合同システムのため、府立京都学・歴史館や府立医科大学の所蔵も一度に検索ができます。府大の所蔵のみを検索する場合は、分館指定にチェックを入れてください。' (Due to the 3-library system, you can search for collections from Kyoto Prefectural University, History Museum, and Prefectural University of Medicine at once. If you only want to search for collections from the university, please check the branch selection.) Another red box points to the search input field with the text: '書名・雑誌名、著者名等の検索語を入力します。複数入力する場合は、スペースで区切ってください。' (Enter search terms such as titles, magazine titles, and author names. If you enter multiple terms, please separate them with spaces.)

This screenshot shows the search results detail page for a book. A yellow box labeled '検索結果詳細画面 (図書)' points to the table of results. A red box points to the '貸出中' (On loan) status with the text: '貸出中の場合、「予約」ボタンが表示されます。' (In the case of being on loan, the 'Reservation' button is displayed.) Another red box points to the '府大の所蔵には、研究室の資料や学部・学科資料室の資料も含まれます。「貸出区分」が「貸出可」及び「学内者貸出」の資料は貸出ができます。' (The university's collection includes materials from research labs and department/discipline material rooms. Materials with 'Loanable' and 'In-house loan' status can be loaned.)

検索結果詳細画面では、図書・雑誌を特定する情報 (書誌情報) と所蔵情報が表示されます。検索した資料を書架に探しに行く時は、所蔵情報を確認し、「所在」と「請求記号」をメモしましょう。館内の蔵書検索用端末からは、資料の詳細が書かれたレシートが印刷できます。

予約は、カウンター又はマイライブラリで手続きをしてください。予約できるのは、所在が府大図書館の図書で 6 冊までです。予約をした図書が返却されたら、メール等で連絡をします。

● マイライブラリ

マイライブラリを利用するには、利用者 ID とパスワードが必要です。
 利用者 ID : 学生は学生証番号 教職員は利用カード番号
 学生証を再発行した方は図書館再発行番号になります。
 パスワード : カウンターで事前登録が必要です。

マイライブラリは、操作が終わったら、必ずログアウトしてください。

マイライブラリにログインすると、このような機能が利用できます。

新着情報
 あらかじめ登録した条件にあてはまる新着資料や雑誌の新着巻号を表示します。設定している場合は、メールでもお知らせします。

入手待ちの資料
 予約した図書や文献複写・借用依頼をした資料の情報を表示します。

借用中の資料
 借りている図書の件数と貸出情報を表示します。予約が入っていない場合、1 回だけ延長が可能です。

依頼 : 文献の複写・資料の借用
 必要な資料が本学になく、所蔵している他大学図書館等に依頼して取寄せる場合は、ここから申込みができます。(有料)

Active Library 活用のススメ !!

公共政策学研究科 博士前期課程 公共政策学専攻 岩村 浩一

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

これからの学生生活、あんなことも、こんなことも実践してみたいと夢は膨らんでいることでしょうか。在学生のみなさんとして想いは変わらないと思います。でも、学生生活で一番大切なことは、何といても「学び」です。卒業後のみなさんの人生にとって宝物となるような充実した「学び」を手に入れる効果的な手法として、ぜひ、附属図書館を有効活用されることをおススメします。

大学での「学び」は、それ以前のものよりはるかに「主体的」です。先生に指導を仰ぐことは可能ですが、これまでの「教えてもらう」から「自ら学び取る」要素は格段に増えることでしょうか。まさに、いま話題の「アクティブラーニング」の姿がそこにはあります。そこで頼もしい味方となるのが附属図書館です。

ところで、みなさんは地域の図書館を活用されたことがありますか？「自習には行ったけど、図書を借りたことはないなあ」という人がほとんどでしょう。私は社会人院生で、かつては地域の図書館長も経験しましたが、中高生のみなさんの「読書離れ」をどうしたら緩和できるかは、在任中の大きな課題でした。そこで、「まずは図書館に来てもらわないと何もはじまらない」と考え、中高生向きの書籍ばかりを集めた「ティーンズコーナー」を設けたり、高校生の「書道展」や「吹奏楽部のコンサート」を開催したり、これまでどちらかといえば「静」のイメージが強い図書館に

新しく「動」のイメージも加味して取り組みました。私は勝手に「アクティブ・ライブラリー」と名付けていましたが、最近、地域の図書館では、このような動きが目立ちつつあります。

では、大学の附属図書館にとっての「アクティブ・ライブラリー」像とはどのようなものでしょうか？これも独自の考えですが、大学のミッション、すなわち教育理念や教育目標とどれだけ結び付いた存在であるかが、鍵を握ると考えます。

本学の理念には「…京都府民に支えられる府民のための大学であることを自覚し、京都に根差した魅力的で個性ある京都府立大学の創造…」が掲げられています。本学の附属図書館は、まず「府民協働」という意味で府民の利用にも供され、広く開かれています。また、「地域に根差す」という意味では、京都府立京都学・歴彩館の建物の中にあり、京都という地域を学ぶには最高の環境にあるといえます。これらの点から、附属図書館はまさに理想的な「アクティブ・ライブラリー」といえるでしょう。みなさんの学生生活を充実させるのに、これを活用しない手はないと思います。ぜひ、積極的に活用されることをおススメいたします。みなさんがその点を実行され、有意義な学生生活を送られることを願ってやみません。



図書館からのお知らせ

◆図書館オリエンテーションを開催します！

新入生の皆様を対象に、図書館の各サービスや館内設備の利用方法を説明します。

○日時

4月4日(木) 14:20～14:50
 4月5日(金) 16:20～16:50
 4月8日(月) 12:10～12:40、16:10～16:40
 4月9日(火) 12:10～12:40、16:10～16:40
 ※全回とも同じ内容です。

○集合場所

京都学・歴彩館 2階 附属図書館「グループ研究室4」にお集まりください。

図書館内を30分でぐるっと1周します。

色々なサービスを紹介しながら、学生証をかざして入室するB1書庫、友達とディスカッションしながら勉強ができるグループ研究室等まわります。在学生の皆様のご参加も大歓迎です！ご参加をお待ちしています。



読みたい本の探し方が知りたい。



図書館オリエンテーションに参加して、図書館を使いこなそう！

◆京都府内公共図書館・読書施設等との相互貸借サービスを開始します！

本学図書館と京都府内公共図書館・読書施設等の間で、資料の相互貸借サービスを開始します。京都府立図書館や府内公共図書館等が所蔵している資料を、学術研究のため、無料で取り寄せて利用することができます。

京都府図書館総合目録で所蔵を確認し、相談カウンターにお申込みください。詳しくは、図書館ホームページをご覧ください。

カレンダー

開館時間

平日 9:00～ 21:00	土日 9:00～ 17:00	休館 第2水曜日 祝日
----------------------	----------------------	-------------------

※平日17時以降及び土日には行っていないサービスがあります。ご了承ください。詳しくは、図書館ホームページでご確認ください。

2019年4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2019年5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2019年6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

★4/8(月) 春休み長期貸出返却日